ハッジ 巡礼（前半）

:

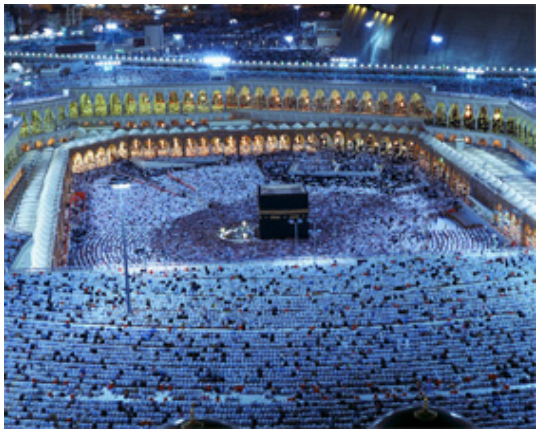
明:ハッジの始まりと、カアバの重要性について。

目: 事崇 行 とその 戒 戒の五ヶ条」とその他の崇 行

より: サウ ド アル＝ハジャリ

日27 Jan 2014

集日 12 Jun 2022



一年に一度の、あの 期がやって来ました。そう、世界中のムスリムたちがせわしくなる 期です。彼らの心の故 が、彼らをいざないます。それは、 おしい神の御殿を れる 期であり、「故 」に る 期なのです。それはカアバ 殿を れる 期です。すべてのものを に残し、神に う 期であり、 い 世を放 し、神の家を れる 期です。それは、ハッジ 巡礼の 期なのです。それが可能な人々は、マッカへと旅し、それが叶わない人々は、どこにいようと、 牲祭を祝うことによってそれに参加します。

ハッジとは 情の 念であり、信仰の祝 でもあります。私たちは、アブラハムによる究 のの 牲をミナ で 念します。私たちは彼の妻ハガルによる、息子イシュマエルへの前例なき 情、そしてサファ とマルワの荒野における、神意への らぎなき信 を 念します。私たちは、最 示が下されたアラファの地で一日を ごすことによって、神による最も 大な恩

、クルア ンに敬意を示します。私たちは、カアバを直接目の前に礼 をすることにより、信仰を祝います。

ハッジはまた、自制心を う行 でもあります。世界中のムスリムは棺桶に められる状 を想させる、2枚の白い布を上下にまといます。それは 世からの死、そして真の家へと向かうことを象 します。彼らは を返 し、皆からの しを求めて れを告げ、神と会うために世での死を 悟します。こうしてカアバを目指すハッジの は完了します。

カアバは特 な 所であり、それは最初の人 によって かれた、最初の崇 の家です。神は旅をするよう、アダムに命じました。彼は数ヶ月 き け、神の きによってマッカに辿り着きました。そこで彼は、神のために家を くよう命じられました。これが、人 にとっての最初の崇 の家なのです。ここが、彼が最初に すべき御方との れを き悲しんだ 所であり、ここが彼が での 光を失ったことに し、数え切れない程の を流した 所です。またここが、私たちが神へのお近づきを求める 所であり、ここが私たちが神への 密さを求める 所なのです。この家こそは、可 宇宙 空の遥か彼方に位置するもう一つの家の原型であり、地上での滞在にも わらず、 すべき御方の御殿における、神の定めへの 和としての最初の行 なのです。

カアバは特 な 所であり、それは一 失われましたが、 すべき御方は、アブラハム（神の称 あれ）をこの 地へと き、御殿を再建する使命をお与えになりました。我らの父は、その息子イシュマエルを伴ってこの なる使命に携わりました。数カ月にわたり、父子は灼 の砂漠の太 の下、永久なる神への 情に燃えつつ、汗を流して きました。この は、作 のものではありません。アブラハムはこの仕事をするために ばれた者なのです。 年、人々はズル＝ヒッジャ月の10日に、この祝福された家を れます。この祝福された日に、神はアブラハムが究 の 牲を捧げるよう命じ、彼はそれに えました。アッラ はアブラハムが彼の息子イシュマエルを 牲に捧げることを命じ、彼はその 行を 意したのです。

カアバは特 な 所であり、その基 はアブラハムの家族の 情と信仰によって かれたものです。私たちはその 所を れ、 を 念します。私たちはその 所を れ、信仰を祝います。アブラハムは真の意味で、自らの身を神に委ねていました。彼は何よりも神を していまし

た。神は彼に、彼が自分の息子を 牲に捧げている を させました。その は り返されたため、彼はそれが なる ではなく、永久なる御方による暗示であることに が付きました。彼はその の を息子に告げると、彼はそのことにためらうことなく同意しました。それが神のご意思によるものであることが分かると、息子は何も言い逃れをしようとはしませんでした。神のご意思が 成されることは、始めから分かっている なのです。父子は定められた 所に向かいました。彼らが目的地に到 すると、息子は父に、 情によって神の命令に背く を起こさせないために、彼が目 しをするよう提案しました。アブラハムがナイフを振りかざそうとしたその瞬 、息子は子羊に取って代わられました。この日、この は なるものとされたのです。 年、この日になると数百万人がここを れます。数百万の人々が、ミナ の峡谷で二人の足 をたどるのです。人々は二人が止まった 所に止まり、二人が いた 所を き、究 の 牲が捧げられた 所にまで足を びます。ここで、人々は神への 情から 牲を捧げ、 地の しい人々にそれを分け与えます。そして、こよなく する息子を捧げることをも わなかった、アブラハムによる神への燃えるような 情と信仰に思いを せます。そこに行くことの出来ない人々は、どこにいようともこの 牲を祝います。神への 情は、祝 されて然るべきものです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1929

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。